

真珠

(創刊号)

宮城県医療社会事業協会

近代社会においては、医療の内容が著しく広範、そして、高度に発達し、すべてが専門分化され、ここに、医療チーム構成員の中の重要部門として医療社会事業担当者は欠くことの出来ないものとなりました。

一方、近代社会環境の複雑化はますますその度を増し、健康も単なる肉体的、精神的なものから、更に社会的安定なくしては保持することが出来ない状態となり、病気の発生も治癒も、経過も、単に医療を供与するのみにては解決のつかない、いろいろな様相が現れてまいりましたから、医療社会事業の重要性は更に更に高まつていくのも当然なことです。県としても、この重要な医療社会事業係の設置の促進と、担当従事者の資質向上のための研修等には一方ならぬ苦心をしておるのでありますが、種々の隘路障害もあり、必ずしも満足すべき状態に発展させることが出来なかつたというのがいゝわらざる所です。御理解ある関係方面のみなさんで、宮城県医療社会事業協会を結成され、自主的な推進運動を活発に進められることになり、県も協会も相携えてこ

宮城県衛生部長 伊吹 岐三

の運動を推進しておりますので社会一般の認識も一段と速度を増したとはいふものの、昨年の調査では県下一三一病院中専任は十一人で兼務は六九名という状況でまだまだ十分なものではありません。

この事業の進展をはばむ問題も多々あり、既に世論になつて御承知のとおりであります。この事業についてはP、Rの不足も一つの原因であることもいふ事実はないでしょうか、この時にあたり、連絡機関誌を発刊されますことは、大変意義の深いことであり、是非継続して初期の目的を達せられますようお願いして止みません。なお未設置の施設におきましては、一日も早く之を設置して患者や家族の社会的経済的、或は精神的問題の解決を図り、治癒促進に役立てるようお願いいたします。

法定の医師看護婦すら充足困難
手が出し兼ねるとは、よく聞かれます。これは、医師や看護婦が不足であるから、というのではなく、会事業面は専門の係に任せ負担を軽減して、おえさきで、このことは設置上の隘路では、おえさきで、違ひ或はP、Rの不足に起因しているのではないかと思ふ次第であります。

兼務ワーカーとして

仙台厚生病院 篠原キヨ

医療相談係なる仕事をおおせつかつてから二年すぎた。その多くは苦しみと悩みにみちた年月であつた。しかし私は今しみじみとした安らぎをもつて過ぎこし方をふりかえつてゐる。

収納掛として二年足らずの勤務の後この仕事に移つた時、その内容についての知識は皆無に等しかつたが、患者の悩みの解決に少しでも手助けさせて頂けるならそれは何と意義ある仕事であろうか。今後の努力によつて何とかやれないことはないだろう。本当に患者の為に働きたいと私は一抹の不安の中にも意気と希望にもえて出発したのであつた。

しかしケースワークとは何とむずかしい仕事であろうか。社会事業専門の教育をうけ、その上豊富な経験とすぐれた人格の持主でなければ到底務まるものではないのにその要素を同一つ持ちあわせぬ私は関係書をひもどき、講演を聞き、研修会に出席する度に自信を失ひ、更に不幸にして長期講習にも出席の機を得ず、加えて病院内のチームワークもまだ軌道にはのつておらず、兼務のため充分勉強する時間とてなくスーパバイザーには恵まれず、八方ふさがりの壁の中で一人相撲に疲れたは何度職場転換を願つたことだらう。

表面に出てくる問題の殆んでは経済的なものに限られその解決の援助のみでは真のワーカーの本質にはずれたものと思われ、精神面の指導という本領にまでぶつかつてゆかねばならぬあせりを常に感じながら、し

かし実際にそのような問題につき当つた時は一体どれ程のことが出来るであろうか、殊に結核病院であつてみれば一人々々の中にかくされそして患者をさいなんでいる悩は限りなくそれを引き出し活路を開いてやることこそワーカーの最大の務めと信するのにも、思ふ何百分の一も実行出来ぬ私はその無能さをただ茫然と見つめるばかりであつた。

しかし苦しみにめいたあげく、私はやつと自分の進むべき道に気がついた。勿論高い理想を、そしてそれに向つて進ずる心をすてゝはならない。しかしあくまで自分をとりまく現実をみつめそこに足をおろしこつこつ学び乍ら自分の前に提出される如何なる問題をも蔑視することなく誠意をもつて患者に接し一歩一歩前進してゆけるならばたとえ力は足らずともそれを許されるのだ、否許して頂きたいといふことを。

身の程しらずしてはいたずらに理想にかられ一足とびに高嶺を目指してはいた愚さに気がついたのであつた。

やがて専門教育を受けたすぐれたケースワーカーが迎えられるまでの過渡期の務めを兼務ワーカーとして最善をつくしたいと願つてゐる。



面白い事もあるのだ。こんな事あんな事沢山あつた問題が、今私の目の前で若い人達が真険に考え込んでいる。病を癒すことは可なりとも患者を癒すことは安からず、随分前から考え続けた私の問題だつた。病は単なる病で終らないようである昔から病は気からとわれた。その「気」である。ケースワーカーの仕事はこの問題に発し、治療上における大きなアドバイスとなる事でしよう。こんな大事の事が近頃迄何故行われていなかつたか、悲しみ又深い。このような事が今後何時迄続ければ、どのような型で仕上げられるか、非常に楽しみである。無理のない形で無理のない段階を経て後退のない成長を祈つてゐる。

結核予防会 砂金 明



日本医療社会事業協会
金国拡大理事會報告

今年度の第一回全国理事會は去る六月十一、十二日の二日間に行われ、千葉県の鈴木きみ子さんが出席した。この時期は偶々梅雨の頃で終始雨に降られたが、それだけ落ちついた話し合いができたに勉強になつたと喜んでゐる。会場に当てられた清澄山清澄寺は日蓮上人の生誕の地に近く、上人が青年期をこの寺に過ごし、霧山の朝日ヶ森に登つて沈思、黙考七日七夜の末、日の出に向つて合掌中、「南無妙法蓮華經」の題目が口をついて出たといふことで、日蓮上人立教宣言の靈地として名高いとのことである。清澄山は房総半島の南端にあり、千葉県下で最も高い山とのことで、南房総国立公園の中央に位し、山上からの房総の山々及び太平洋の眺望はすばらしいのであるが、相僧の雨で雲海のかなたに安房上総の山々や岬が煙つて見えたとのその一端をしのんだに過ぎず誠に残念であつた。もつともこのような地であるので、交通は至つて不便で、千葉駅から鄙びたローカル線で、二時間半以上ゆられて着いた安房天津から、登山バス二十分余、さらに徒歩で急坂を十分余という処にある。ハイヤーでは寺の山門前まで行くことができたが、距離によるメーター料金の他に、難路運転の技術料金として二百

円加算という仕末である。それだけに寺は幽幻静寂の極みで修業の地としては適して、樹令十年という大杉を始め、亭々たる杉がうつつそうと生い繁る中に巨大な伽藍が地から生えたように厳然と建つてゐる。

さて東京から千葉行きの車中で岩手の赤沢さん一行に偶然に一諸になり、更に千葉からの車中には東京はじめ各地の医療社会事業関係者が乗り込み、開會をまたずにあちらこちらで各地の話題やら議論に話の華が咲き、誠ににぎやかであつた。小雨の煙る天津駅に着き、そこで同じ列車で到着した二十数人が挨拶をし交して車に乗つた。山へ上るにしたがつて雨は激しくなり、肌寒い会場へ着いたのは二時をすこし過ぎていた。

午後三時、清澄寺の講堂で予定通り開會が宣せられた。参會者は全国から四十五名、千葉県から二十一名の計六十六名であつた。まず会長挨拶が渡賀会長欠席のため、吉田ますみ副会長(聖ルカ病院)によつて行われ、続いて開催地代表として千葉県医療社会事業協会長である岡田国立千葉療養所長から挨拶があり、更に来賓として厚生省保健所課阿形技官、千葉県衛生民生部本田医務課長から挨拶があつた。阿形技官からは病院における医療社会事業業務基準の作成についてその進行状況についての説明があつた(詳細は後述)。引続き議長団の選出が行われ、議長に村山午朔副会長、副議長に森

三郎氏(神奈川県中央精神衛生相談所)が選ばれ、直ちに議事に入つた。

議事はまず本部報告から始められた。本部各都府責任者より毎月一回の常任理事會の開催状況及びその議題について報告があり、更に昭和三十六年度(歴年度)一般会計才入、才出決算並びに特別会計についての報告があつた。それらのうち主なるものを挙げれば、総務部から昨年十一月の岡山における理事會の決定事項については一月厚生省に申入れをしたこと。教育部から全国講習會の他にプロック別講習會を開催すべく、プロック在住の講師名簿を作成中であること。企画部より医療社会事業のPRに重点をおく活動をし、新聞社を通じて働きかけること。即ち新聞社に寄せられる投書のうちMSWの手で解決出来ることには積極的に関与させてもらふよう、またこれで解決した場合にできるだけ新聞紙上にその成果を報道してもらふよう申入れ、本事業の一般へのPRを期している。また一般向けの医療社会事業事例集を作成分すること。これについては東京都支部で既に作成済みであり、神奈川県協会で七月に作成予定であり、これらの事業の重要性が強調された。組織部から現在の支部数は二十五で(愛知、東京、神奈川、福岡、栃木、和歌山、埼玉、新潟、三重、長野、北海道、大阪、岩手、岡山、宮城、長崎、香川、広島、高知、大分、静岡、福島、千葉、秋田、岐阜)設立順

、その他に富山県が先日結成され、兵衛郡が公衆衛生協会の内に部として存在し、郡馬場が近々結成予定であること。会員数は昨年の七六〇名が今年は八一七名になつてゐることなどである。出版部から会報は第十二号まで、ニュースは昨年総会後一回発行したこと。次回のニュースはこの理事會記事等をのせたものを出すこと等であつた。

議事は次に提出議題について提案討議及び採択が行われたが、王を議題にして概略を記録してみた。

1 病院における医療社会事業の業務指針について(本部)

吉田会長より説明が行われたが、さきに厚生省阿形技官より挨拶の中で述べられたように、病院における業務基進について昨年提案ができたが、これについて各方面より種々の意見が出され、根本的に検討し直しを行ふこととし、本年一月以降毎月二回、阿形技官を中心として討議を行つてきた。漸く完成に近づき六月中旬に完成を得る予定であり、今秋の総会迄には完成の上、発表できるものと思つて、これに対して出来た草案を各病院へ届出できるよう方策を考へて貰いたいとの要請がなされ、本部でも考慮する旨の答弁が承りました。

2 医療社会事業講習會について

ワーカーの教育方法として、(香川県) 対象とするものと、初任者を対象とするものと一本立てとすること。教科内容について十分研究する事が望ましい。との提案があり、各支部から活発な討議が

あり、厚生省では初任者の講習を考へていない様だがぜひ初任者の訓練をしてほしいと要望があるかと思へば、高度のものではない。従来インスタントのものではだめで、スーパーバイザーの要請されている現状を解決する方向へ進んでもらいたいとの発言もあり、やはり各地のワーカー設置状況、ワーカーの地位などの不均衡の状態が反影した議論となつた。結局阿形技官から厚生省としては一昨年今後初任者訓練をしないことの方針を立て、昨年の長期講習では現任者の高度訓練を企圖したが、地方によつては初任者講習を強行に主張し、受講者の経験年数に相当の差があり混乱を來した。今年はこの状況から初任者の訓練を目標とした講習とした。しかし厚生省としては養成講習はできるだけ早く切り上げる方針であり、現任者の高度訓練を目標としたものに持つて行きたい。しかしながらできるだけ早くといつてもMSW養成大

学でのカリキュラムが適切なものへの変更及びMSW希望者の増加が先決条件で、こうなるにはあと数年以上はかかることを考へている。また長期講習が二カ月になつたのはMSW養成のみではこれで充分で社会福祉主事の資格認定をも兼ねると三カ月必要になる。今後は資格認定は考えず二カ月講習を行う予定である。この二カ月講習は初任者を対象としたもので、現任者訓練は秋の短期講習をもつて当該ことに考へている。

3 医療社会事業従事者長期講習會の受講定員の増加について(高知県)
4 地方にケースワーカーになり得る教育制度を作りたい件について(高知県)

5 昨年度現任訓練の講習を受けた者の資格について(高知県)
一括討議されたが、地方へ講習会場をもつて行くことは仲々困難であり、各地に養成施設を設置するよう促進してほしい。又受講定員は教育上五〇名が限度と考へられる。昨年度の現任訓練の受講者中初任者については暫定的に認定してゆきたい。今年度は初任者訓練なのでそのつもりだとの旨の阿形技官の答弁があつた。

6 医療社会事業振興について(厚生省への要望(本部))
保健所、病院におけるMSWの業務指針も作成され、教育制度についても検討が加えられ、MSWの重要性が次第に認識されつつある現在、厚生省において、更に一段と医療社会事業の振興のため、努力されますよう左記事項を要望します

○MSW養成講習會の強化について
従来、毎年一回夏季に二カ月程度の講習會が、厚生省、全社協、日赤、結核予防會、済生會の共催で開催されており、講習終了者は、ソシアル・ワーカーとして、実務をすぐ遂行できるよう教科内容の拡充、定員の増員、期間の延長等検討され、あわせてその予算面においても十分な措置を講じられたい。

○全国現任訓練講習會の強化について
従来、毎年一回四〜五日の日程で開催されておりますがその内容はともかくとして、予算面で甚だ不十分なように思われる。

○ブロック別現任訓練

現段階では各府県が単独で有効な現任訓練を行う態勢のあるところは数が少ない。したがって当面国において全国を数ブロックに分けて、各ブロック毎年一層一層階位の訓練を行い、現任者の資質の向上を計りたい。

○公衆衛生員にMSWのコースを確立された。

半年～一年位の期間でMSWスーパーバイザー養成のコースを早急に設け、各府県の中心的専任者からスーパーバイザーを養成するよう配慮してほしい。

○MSW推進のための資料を厚生省で作成し、大量に配布してほしい。
例えば保健所、病院の医療社会事業、業務指針や事例集、あるいは各種の関係資料を作成し配布することによつて、各府県事業所の認識を高めるよう指導してほしい。

○MSW推進のため各府県に事業補助金を交付されたい。
地域の連絡協議会推進のため、あるいは事業にもなる備品整備のためなどに要する補助金を交付されたい。

○MSW協会に対する助成金を交付されたい。
神奈川県、埼玉県、愛知の各県においてはすでに県協会に対して若干の助成金が交付されている。国においても、MSW振興と協会育成のための助成金を交付されたい。

たい。

この提案に関連して討議された事項の主なものをあげれば、MSWの教育制度案は、一般MSWはカリキュラをMSW養成に近くようにした四年制大学卒業を幹部又は教員であるスーパーバイザーMSW（指導MSW）は四年制大学卒業後（1）一年間の実務経験と二年間の養成コース修了。又は
（2）二年間大学院修了（但し一年間はMSWとしてのカリキュラ修了）。あるいは
（3）スクール・オブ・ソシヤルワークを終えることに原則をおき、既にMSWとしての有資格者は経過的に認めることとするというのである。これに関して村山副会長から、今までやかましくいわれてきた身分の問題も教育制度の確立に伴つて身分制度も定められねばならず、ひいては医療制度の法制正も必然的に行われべきものと考えられると発言があつた。

厚生省の医療社会事業関係の現予算はすべてを含めて年二十数万円であること又各地の財政事情のうち補助金を受けているのは数県であり神奈川県は県から十五万円、横浜市から五万円、川崎市から二万円の補助金（年額）を受けており、県立病院、保健所職員の会費は県費で組んでいふこととであり、埼玉県は県から十萬円の補助と県関係職員の会費は県費支出であり、愛知は県から十萬円、名古屋市から十萬円、共同募金から十萬円の補助金を雑誌編集費用として受けており福島は県から十萬円、病院協会から十五萬円の補助金をもらつていふこととである。

またブロック別ということであるが、厚生省としてはブロックというものを段々なくして行くという傾向にあるとのこと、全国一本にして考えたいとの意志表示があつた。
MSWは公衆衛生院では衛生行政学部の所管事項で、公衆衛生院におけるポストグラジュエイトの訓練について現在考慮中であるとのことである。

7 医療ソシヤル・ワーカーの教育並びに身分の確立について（大阪）

8 公立病院、保健所の医療ソシヤル・ワーカーを技術職員として身分の格付をされたい。（岡山）

9 法人立病院にMSWの必置を法制化されたい。（岡山）

10 医療社会事業を強化推進するため医療社会事業従事者を必要な施設に設置する。又はこれが制度の整備を急がれたい。（三重）

11 身分の法制化について（高知）

医療社会事業従事者教育制度研究協議会について（本部）

これらの問題については従来より討議されてきたものであり、今後やはり強力に推進する必要があるので、総合して今年秋の総会に決議として取上げ、厚生省な

などに働きかけることとするといふこと
で決定した。なお教育制度の問題一つを
みても正式の答申が出たとはいふもの
の答申が出てから法制化されるまで日数
がかかるので、これの促進のために協会
の力が必要であり、身分、設置などの法
制化のためにも協会の努力が期待され
るという発言もあつてこれらの問題は終
つた

13 危険手当を保健婦と同様に出してほ
しい(岡山)

各地の状況がどうなつてゐるかといふ
ことで、神奈川は訪問手当として二十五
円までであり、岐阜は朝整号俵で考慮さ
れており、東京は結核接種手当、巡回訪
問手当として出ている等の紹介があり、
協会として各地の実態を照会してまとめ
その結果を発表し、その上で研究するこ
とにした。

以上で第一日目の議事を終了し、第二
日目に引継ぐこととして閉会した。

(つづく)

仙台市東保健所

藤 咲

★ 医療ソーシャル・ワーカー

日本国憲法の精神と専門社会
事業の原理にしたがい、われわ
れはつぎのことがらを医療ソ
シヤル・ワーカーの倫理綱領と
さだめる。

われわれは、

一 個人の幸福増進と社会の福祉

向上とを目的として活動する

二 対象者の処遇にあつては、

その意志の自由を尊重し、秘

密を守り無差別平等の原則に

したがう。

三 ソーシヤル・ワーカーとして

の自覚をもつて対象者との専

門的援助関係をたもち、その

関係を私的目的に利用しない

四 医療社会事業の意義と機能が

他の関係職員に理解されるよ

うつとめ、その目的達成に努

力する。

倫理綱領

五 専門職業の立場から社会活動
をおこない、社会資源の活用
と開発をはかり、社会保障の
完成に努力する。



ケース

長期療養一女患者の問題

患者氏名 T子 (三十九才八月)

住所 I市

病名 肺結核

支払区分 生活保護

入院月日 S三十、五、二十七

(初診S二十七)

家族構成 T子 本人 三十九才

入所中

夫 四十八才 I市在

住 女 高卒 二十一才 (S三〇 協議離婚)

長 男 高三 十七才

次 男 中二 十四才

三 男 小五 十一才

融和状況

患者当所に入所後まもなく協議離婚子供は全て夫の方でひきとつてゐる。実家には弟夫婦、七十才になる母があり、日用品等実家の世話になつてゐる。其の他離婚した夫の方より毎月一〇〇〇円つつ送金がある。

患者の生活歴

出生一〇ヶ月(正常) 離乳一年半(母乳) 二歩行開始一年三ヶ月、発話一年二、三ヶ月、幼少時の病歴は特になし。村山小学校卒業後家業の手伝いをしてゐた。

(以下患者の語による) 父には甘やかされて育ち母は厳しかった。十六才時父胆石疾にて死亡。数年十八才時家を飛び出し東京の帽子屋の女中となる。一年位で呼びもとされ、十九才の時同村出身の夫にみこまれて、いやいやながら結婚。結婚後は父親に甘えたように夫に甘えたが、夫は頭から自分の意見をおしつける人だったので、患者は劣等感強く自由に振舞うことは出来なかつた。夫から「お前とは水と油だ」と言われたことがある。二十七才時鼻を手術後はずかしくなり、精神科に一ヶ月位入院電気ショックをかけたことがある。S二十七年某病院にT、Bにて入院S三十年協議離婚(実際は二十八年) 夫から毎月一〇〇〇円の送金があるほか手紙もこない。子供も手紙もくれない。某病院入院中に主治医を好きになり、恥かしさため(心感悪くなり)気分転換という理由で当所に三十年入所。

病状

学会分類りⅡ、ガフキーク号、赤沈30mm、体重四〇kg、肺活量一〇〇〇cc

患者の主訴

三十年当所に入所後まもなく好きな男性が出来た。そのことを隣のベットのAに話して翌日からはずかしくなつた。そのはずかしさはおしりがへこむようにはずかしく耐えられない程である。好きな人は二、三人交つたが、恥かしさには交りなかつた。恥かしさのためいくらか栄養をとつても病状は良くならない。廊下を歩くのもみられるとおしりがへこむようではずかしいので転院したい。

十月八日 病棟より本人が会いたいと言つてゐる旨通告あり、病棟看護婦室で面接したが看護婦の出入あり、オリエンテーションにとどめ、気分の良いとき相談室で会うことを約束する。

十一月六日 患者来室、第一回患者と面接、はじめのうち、恥かしそりにして話さないが秘密は絶対守ることを伝え、転院の理由について話した。

十一月二十一日 第二回患者と面接、前回よりもなれた様子で、生活歴についてかなり詳しく話した。

二回面接後の所見として

- 一、父親の結びつきが強い
- 二、家出をして自活したことがある等かなり積極的な面がある。
- 三、反面呼びもとされてすぐ帰つたり気の進まない結婚をした等意志の弱い点がある。

四、結婚後の生活に不満があつたこと。

五、長期療養者であつた。

六、六年前協議離婚、夫来所せず小遣い一〇〇〇円を送つて来ること。

等をあげ、患者に吐露させ自己洞察させ

たいと思つた。

十一月二十八日 主治醫より鎮静剤投与

してゐるといふ連絡あつた。

十二月四日第三回患者と面接。胃腸薬

(鎮静剤)をのむようになつてから頭

が重く気が晴れない等話した後、夫と

の活についてかなり詳しく話した。

十二月十二日 イライラした様子で、こ

こにいてはいつまでたつても病気が良

くならないので転院したいと言ふ。

一応患者の気持をうけ入れ某病院から転

院した理由をたずねると、転院の理由

(前述)や精神科に入院した事がわか

つた。自覚症状があるらしく、病状に

対するあせりが見られる。

十二月二十二日 第五回患者と面接

母親来所した旨話し、去年までとは違

つて冬が越せるかと心配だ等話し、気

分が悪いとの事で面接打切る。

十二月二十五日 連絡、気分が悪くて来

室出来ない旨。

ワーカー所見

このケースは、過去の結婚生活、療養生活に於ける抑圧、慾求不満状態と、患者の性格が大きな原因になつてゐると思われ、程調査は充分でない。又患者とのラポールも正しくかけられなかつた。その状態のまま治療関係に入つた型になつた。しかし相変らず転院の希望の強いことは治療関係が進歩してゐないことを意味すると思ふ。このまま面接を続けてみたかつたが患者の具合悪くなり継続出来なかつたことは残念である。これから暖かくなり患者の調子がよくなれ

隨筆

だんだん空があふくなつて来たのに、私の頭の中は相変らず春霞のごとくである。そんな臆とした中に、たつたひとつきづいたことは、空が高くなればなる程、自分の存在は「ちつぽけ」なものに思われてくる。と言ふことであつた。

今よりも、もつと、もつと若かつた頃、私は四貫のザツクをせおつて山に登つた。秋晴の山の雄々しい姿に、そして、ふとあおいだ空のあふさと、刷毛で掃いたまうな一條の白い雲に、自分の存在を忘れてしまつていた。(その時の心理をことばで言ひ現わすことは困難である。そして又これは、正に凡人の悲劇である。)

現在から未来への流れの瞬間に、必要とあればいつでも自己の存在を忘れ去ることが出来ないものであるうか

今よりも少し若かつた頃、私は山の温泉に出かけた。ゴロゴロと魂までも押し流されそうな谷川の巨岩の上で、私は妙に力んで、自分はここに立つてゐる。流れもせず、逆らひもせず立つてゐるのだと言ひ聞かせていた。

そして現在、古い感動は片隅に追いやられ、朦朧とした中で、アンデルセンに無中になつてゐる。

ば又面接は続けられるのだが主治医と連絡をとりケーネワークを進めて行きたい

昭和二十四年

宮城県下に始めて三名の専任医療社会事業係が置かれた。

石巻赤十字病院

初代ワーカー

仙台中央保健所

志賀 ゆり子

仙台赤十字病院

久永 邦子

其の後国立宮城、玉浦、西多賀各療養所其他に医療社会事業係が置かれ出したが、宮城県としての協会設立迄に至らず、各自が日本医療社会事業協会に加入し、毎年中央で開催される厚生省、日本医療社会事業協会、全社協共催の長期、短期の講習会や、国立日赤等で行はれる講習会に夫々出席したり、地元で行はれる児童、身障関係等の研究会に参加して勉強に努める一方、県、県社協等に医療社会事業についての認識を深めて載ける様に働きかけに努めていた。

昭和三十三年

八月十五日〜八月三十日

第一期 県主催 於自治研修所

九月十日〜九月二十五日

第二期

「モルモット」

大学病院 大野 敦子

大学病院と言えはとかく「研究材料にされる」と一般に解釈されているものらしい。



当相談係に舞い込んだ成るケースを公開する意はありませんが、この機会を得たので皆様の御批判を仰ぎたいと思います。

三十五才位の或る婦人が病院玄関で大声で泣きわめ

下さい!!」と言うのである。未熟なワーカーは突差の事に一瞬とどつたが内科外来予備室に通し静かにわけを聞いて見ると両手でタオルを眼に覆うたまま尚も激しく泣きしやくつている。グレーのストーツを着ているがチリチリにパーマをかけ顔こそ見せないが陽焼けたその横顔を覗きこそうな手から一見農村の主婦らしく、どこか体の具合でも悪いかと先ず聞いて見たが首を横に振り再び「私の体を病院で研究材料にして殺して下さい」と言い。嗚咽と興奮とで中々言葉にならな

たが姑と折りが合わず数ヶ月で離婚となり、其の後点々と職を夢えたが何れも長続きせず、本人はそれを不器用の為と思

病院という所は病気で苦しんでいる患者を助ける所であつて薄い人命を犬、ねこ如く研究材料にする場所ではない。類

この五日間S駅の待合室で夜を明かしたという此の婦人は全くの無一文で昨日から何も食へていないと言うのでパンと牛乳を売店から買つて与えワーカール共

てくれず、そのまゝ警察よりも婦人相談所の方が良いと考え、他のワーカーや医事班長に相談

適切を所長の面接と指導によつて本人は前日は打つて寝て明日への希望を見出し、もう少し落着いたら今後更生の道を考慮するとの返



以上未熟な私の此の処置に対して皆様の御批判を仰ぎ、今後よろしく御指導下さるよう御願



医療社会事業という言葉を知らず、昭和三十三年頃であつたと思つたのは、昭和三十二年頃であつたと思つた。当時厚生労働部社会課保護係長の席にあつて、生活保護事務をとり扱つた時、特に医療扶助に種々問題があり、如何にして医療扶助患者を医療機関にお願ひし、如何に医療機関の協力を得るかについて種々研究したのであつたが、即ち今までの医療機関については患者をお願ひしても、社会福祉主事(医師)看護婦、医事係と飛び歩いてその状況の把握を行うため、訪問には苦勞したもので、何とか良い方法はないものかと、いろいろ考へていた。

当時よく日赤病院の小山さんが身体障害者のことで来課下されて居つたのだが、自分の係には関係ないものと思つていた。ある日、身障係に聞いたところ、始めて医療社会事業に従事している事を知つた。その内容を聞き、行政面と結びつけて医療社会事業の推進を図らなければと考へ、勉強を初めたのが契機となつた。しかし、その素因には社会福祉主事研修を受けたこと、児童相談所で苦勞したことも大きい源となつていた。

ここで本県の医療社会事業の現状を調査して見たが実にさびしい限り、メヂカルケースワーカーの設置は日赤病院のみであつた。如何に關心がなかつたかわかるとともに、東京以西の府県が終戦後、これを大きく取りあげ、実施に効果をお

けていた事実を、上京の都度見たり、聞いたりして是非これを推進しなければと思ひ計画を初めた。

先ず第一はワーカーの養成が急務であると考え、講習会を計画した。当時そんな予算はないし、又予算獲得も殆んど不可能である以上、予算なしで、実施出来ないであろうかと考へ、一ヶ月講習とし病院事務の都合を見て、これを十五日間づつ二ヶ月間に分けた。講習は、医学を除いた四十項目とし、教室、講師は無料でお願ひすることにした。教室は県の自治研修所、講師は県の職員を中心として四十人、仕事の合間に、頼みに行つたり電話をしたりしたが、何分医療社会事業を理解するために、説明するのが大変で平均二時間位かゝたことをおぼえていた。終りに講師手当のないことを話するのが一番つらい思ひだつた。しかし実施にあつて上司の理解と、講師の方々の御協力頂いたこと、この機会に厚くお礼申し上げたい。結局この講師依頼に半年もかゝつたので、計画から実施迄一年ばかり経過した。

次に困つたことは受講者のことで、当時病院及び先生方には前から機会あるたびに説明をして設備方をお願いしてあつたが、さて講習会実施の申込みとなるとさつぱり反応がなく、これでは大変と電話等で勧誘二十二、二十三人位になつた時は「ホットしたものだつた。」

終りに終了証書を出す予算がなく、各機関から応援を願つた關係で、四機関連名の証書となり、連名の証書というのも珍しいのではないかと思つている。

このように予算なしに一ヶ月もの講習会を開催した事は、長い役所勤務中初めての経験で感がい深いものがある。

とにか、この講習会終了後は、各病院に、専門のメヂカルケースワーカーを置くようになり、あらゆる相談に応じてくれるため、患者の治療効果もあがり、病院経営にも一助となり、又医療扶助患者の取扱ひについては、実施機関と協力、適正な扶助の実施を付加することが出来ワーカーの設置は、一石何鳥にもなる重要な役割を果す結果となつた。

以上のように医療社会事業の進展は、今後益々要望され、又医療施設の分業化によつて、優秀なるメヂカルケースワーカーの設置が当然必要となる。

この機会に病院経営者の理解と協力を是非お願ひしたいところである。

終りにメヂカルケースワーカーの方々は、常に社会の進展に目を向け、研修を怠ることなく常に研修の機会を持つよう、願うとともにこの研修の参加について病院経営者も、良き理解者となつて、ケースワーカー技術の進歩のため特に協力をお願いし、今後の進展を心から期待するものである。

皇国民年金課 森田長雄



☆巡回診療に参加して

菅野 鞠子

去る五月二十六日、七の両日、私達は
療社会事業協会の一員として青年会議所主
催の巡回診療に参加し、桃生郡女川町江の
島へ行きました。内科、外科、歯科、眼科
婦人科に床屋さんも加つて五十数名の夫が
かりな編成でしたが、私達相談部は第一日
目、国立仙台病院の鈴木ワーカーと私、第
二日目、佐藤病院の菅原事務長と結核予防
会の加藤ワーカーが応援に来て下さいまし
た。仙台発午前十時二十分、江の島は女川
から船で一時間、江の島着午後二時早速診
療を開始しました。一日一往復しか船の通
わぬこの島は、人口千二百、漁業一本に依
存する波風荒い離れ島で、隔絶された地の
常として血縁的相互扶助の非常に強い所と
思われました。

第一日は、もつぱら島の実状を把握し又島
の関係者に私達の役割について知つてい
たことに努力しました。

夜民生委員さん宅（奥さんが婦人会長）
を訪問し、高血圧症者の多いこと、結核入
院者が数名いること等、お話をうかがつた
のもその一つでした。

第二日目は前日の見聞を基に計画を立て
て行動しましたが、関係者から相談も数件
持込まれ、案外忙しい一日でした。

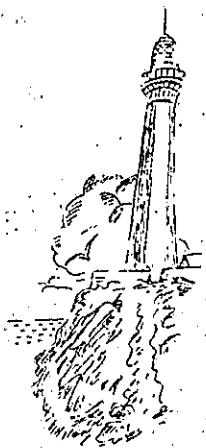
入院中の嫁のこと、社会復帰が心配な結

核療養者、転院の希望者、若い娘さんの相
談等でしたが、曲りくねつた石段を上つた
り、下つたり、家庭訪問もしました。

その場で終了と言うわけにはまいりませ
んのでも、帰つてからの関係機関と連絡をと
りながら援助を続けることにし、午後三時
荒れもよりの海にせかれて島を離れました。
計画して下さつた婦人会の方々との話合が
そのため中止になつたのは残念なことでし
た。

仙台着午後六時過。表立つたはなやか
な活動ではありませんでした。数件のケ
ース発見がなされ、現在、援助がすめら
れていることや、関係者の理解を得られ、
今後の足がかりが出来たことにより、診療
班の一員としての役割をはたし得たので
あれば幸いです。若いワーカーである
私にとつてこの島の人々の生活に直かに
接する機会を得たことは大きな収穫だつた
と思ひます。

そして、私達を参加させて終始細い配慮
を下さつた主催者の方々と、ケースの紹介
に、訪問に協力して下さいました島の方々
に、心から厚く御礼申し上げます。



人物寸描

岩本正樹（会長）

お逢いするとお話しがしにくい位隠され
た力を身に感ずる。殊に世の中の話を進め
る事においては是非の判別を言葉なくして
小さな眼に涙と怒りを確然と表わす事が出
来る人になつた苦勞の人、立派な事を言
れると本当に喜んで膝を乗り出し、悲しい
事を聞かれるとその解決にこの段階ではど
の程度の事が自分の節廻に於いて出来るか
と自分に問い返すような態度は親しくお逢
いしている人に良く解る。

コップ酒を若い人達と一語にのめる立派な
人である。願わくば先生は政界の人になつ
て欲しくない。いつ迄も私達と一語に困つ
ている人のために奥深く暖かい手を差のべ
られて下さることを。

内政性のワーカー

菅原 熊夫（庶務会計）

生れた時に弱そりな子供には熊とか、虎
とか名を付けて、強くなれなれと親が考え
続けるとか！ 気はやさしくて、弾力がな
く、別段人を使うと言う人柄でもないよ
うに一見感ずる。然しそうである中にもそ
現代のマネジャーが生まれたのである。佐
藤病院の事務長として、充分にその力を発
揮している。

一応のドライバーとして酒をのむ時は運
転は絶対しない。夜など誠に安全運転であ

総 会

去る六月十八日午後一時より結核予防会宮城県支部にて宮城県医療社会事業協会の総会が開かれた。

県庁、県社協等関係機関、岩本会長、島山、女川両副会長、それに従事者を加えて三十三名終始熱心な討議が続けられた。

前年度の事業報告、会計報告に続いて去る六月十一・十二日千葉県で開かれた全国理事会出席の藤咲東保健所長の報告があつた。

理事会においては厚生省から出席された阿形技官を中心に活潑な論議がたゞたわされた。ワーカーの身分保障に関しては、教育制度の確立に附随する問題であり、厚生省としては、四年制大学卒業者を基本資格と考へ、更に現任者の教育も行い、現在の養成講習会を漸次廃止していく方針とのことであつた。

本部と支部との関係についても、各県協会の会則の中に日本医療社会事業協会支部をかゝるといふ条項を必ず入れてほしいとの要望があつた。

更に今年秋の全国大会までに支部より本部に対する分担金問題と社会保険にワーカーの相談料として診療点数加算案と、来年度の全国大会開催地を、宮城県に依頼したい旨の提案があつた。大会開催については、神奈川県支部が再来年協会成立



十周年記念をかゝて引受けることになつてゐるので、来年度の大会は、是非宮城県支部に引受けてほしいとの強い要望であつた。この報告があつた。この点については協会だけで決定出来ることではないので関係方面の意向打診の上、大会前に一応の結論を出し回答出来るより準備することになつた。

その後、長い間、県案となつていた会則改正が討議され、主な改正点は、本協会がこの仕事に従事する者を原則とした正会員と、この事業に協力する医療機関及び団体よりなる特別会員によつて構成されることになつた。会費は双方年額千二百円とし、その中には正会員の本部の年度会費五百円も含むものとし分納も認めることとし、改制案は協会の基盤の確立をはかる点にあり、早速この線にそつて各方面に働きかけることになつた。又役員については、会長、副会長には今迄通り岩本、島山、女川先生にお願いすることになり、実際の運営に当る理事には在仙の会員が引受け、責任者として庶務会計、菅原、足利、篠原氏、

事業(出版、教育、調査) 鈴木氏、小山たき氏、企画(渉外) 森田、小山砂金、藤咲各氏

相談役として県庁の高橋主事、社協の岩井部長にお願いし、他の会員は、責任者の要望によつて随時協力することとし、

なごやかなふん囲
気の中に午後五時
過ぎ、三十八年度
総会は終了した。

る。ケースワーカーとしての進め方並びに組織への働きかけも完全運転である。
この積極的な活動を今後期待する。

細 織 部 場

島 山 辰 夫 (副会長)

最近、めきめき実力を発揮し各界にその名を知られている。ことに厚生省官僚と医師会、そして医界との間において大小の問題数多く、その中に立つて見えない苦勞が国立療養所等に現われている。然もそれ等の中で敢然と立つて立派なサナトリウムに一般諸治療面迄とり入れられておられる事は敬服する。そしてそれ等の苦勞等全然現わしてはいないし、官僚の臭みは微塵もない。近頃方々に見られる組合運動並びに患者対の問題等も切りもりされ、外部よりその程を知ることも出来ない。昔から敵、味方半々は世の常と言われた。

この言葉は敵を作つてゐる人の言であると思う。非常に多忙の中で「日本の医者」として完成なさること近い。

敬 層 書 房



家族全員結核の

事例について

この事例は三十六才の世帯主、三十一才の妻、一才二ヶ月の双生児(男子)の家族全員が肺結核に罹患し治療を必要とする事例である。双生児は未熟児として出生したが、誕生後、ほぼ標準近い発育に追い付いたところ、結核となり、現在発育遅延状態である家族感染としか思えない。

昭和三十七年七月中旬妻が発熱したので医師の診察を受けたところ結核と診談され治療開始となつた。双生児のツペリクリン反応検査の結果、兄弟とも陽性更に保健カードを交付し、家族検診をすすめ其医院で受診したところ世帯主は又写真で空洞が認められ、開放性肺結核双生児は二児とも初感染結核と診談された。

世帯主三十六才
一見度已型で青白く温厚な性格で家業に専念している。面接時も、口数少く、いつて反抗的態度も見えない。昭和二十六年春ろく膜炎、同年十月肺浸潤(就職時の健康診断で発見)昭和二十七年九月国立療養所に入所、昭和二十八年四月肺葉切除、同年九月胸廓成形術施行、昭和二十九年九月退院、昭和三十五年結核、昭和三十七年感冒に罹患した際は透視で異常なし。

昭和三十七年八月保健カードにて受診の結果要治療、病気の妻をたより過ぎ、妻の安静に理解がない。
妻三十一才、家業を手伝っているが夫が既往があるのでその三倍も働いている。子供の保育は勿論、家事家業に多忙過労である。その割合に清潔整頓がゆきといてお

り何時も明るく、陰険なところがない、面接時自分の思いのまま打明け話し合ひ、疫病についても仲々理解があり、しつかりした性格である。既往症八年前、ろく膜炎罹患したが、治療の結果完全治癒したといわれ、子供は一才二ヶ月の双生児出生体重二、一〇〇キログラム、二、一〇キログラム、九ヶ月早産児、栄養は人工管理、身体精神發育、満一年までは腹痛であつたが現在顔色は余り良くない。は前述のような母親に保育されたので良好である。

環境は店が国道に面しているので交通頻繁で車の騒音が始終あり、建物密集して西向の平屋、表のみを間借している六畳の居間、平坪の台所、一部を店としている。店には商売用として電気冷蔵庫が一つ、机、腰かけ、電話等設けてあり、福島より運ばれて来た食品を保存するようになつていて、採光換気不良、水道専用、伊所共同、清潔整頓良い。

経済状態、昭和三十五年秋、借金をして販買の権利を譲り受け、独立した。外見体裁は良く見えるが子供のミルク代と借金の返済におわれている。子供達のため、扇風機、歩行器柵はベツト等もついている。使用人は人件費その他で赤字になるので自分達だけで働いている職業上、十人の配達人必要とするので中学生のアルバイトを雇つていて、生活費として月七〇〇〇の得意があり、収入月、四二、〇〇〇、支出アルバイト費用一、二〇〇円、並に子守代、月五、〇〇〇円、家賃三、〇〇〇円、残金

を生活費と借金返済とよる弁つてている。
治療状況、昭和三十七年七月二十四日妻A退院肺結核退院治療。昭和三十七年八月三日、夫B退院左肺結核(空洞有り)喉疫菌塗抹(一)通院治療。昭和三十七年八月三日二児共、C通院初感染結核通院治療。

全言入院では折角譲りうけた家業を廃棄するようになり、生活の前途が真暗になるので軽度の妻が通院治療しながら家業を続けたい。然し結核である二児を保育しながらでは妻たるケース病状悪化することとが明らかなので、児の世話を実家に相談したところ、実家でも乳児がいるので出来ないこととわられる。夫の方は結核予防法第三十五条の適用をうけて命令人患者として、入院治療が出来ればと主治医より診査会に提出したが、菌培養の結果をまつ事になり、保留となつた。その後療養所において診察の結果、第三十五条に適用しない事になり、ケースは迷う結果となつた。

子供は附添のいらぬ基準看護の国立病院に二週間入院させたが、費用もかからないので病院のケースワーカーに相談したところ、良い助言が得られず退院した。現在妻の実家に無理にあつて他の医院に通院治療している。

何時、つれもとどされるかと不安であり、夫婦ケースは精神的なやんでいる。
児の医療支払いに困難なため、医療保護申請について町のケースワーカーに相談するよう話し合つたが、世間に一家結核と言ふ事が知れると家業に影響することをおそれ納得しない。
問題点として次の諸点があげられる。



初夏に企画した会報が、初秋に入つた十月漸く発刊にこぎつきました。

その間、会員諸氏には、患者のもつ種々の悩みにかたふれ、殊の外濃きにくく、酷暑を過ごされたことでしょう。

さわやかな秋空を仰ぎ、あらたな意欲をもちやして頂く一助になればと願ひつゝ、この会報をお手許に送ります。

旧障に属することの多い報告が、誌面を

き厚くお札申上げます。

埋めた感じになりましたが、創刊にあたり

八月末日迄入会の特別会員名を記載させて頂きました。

先ず第一に協会の行事について、会員諸氏

に良く知つて頂き、協会の今後の発展に協力

力頂きたく、多行事に参加した会員に、報告の

力をとつて頂きました。今後共よろしく御賛同下さるようお願いいたします。

号を追つて身近かな問題を取上げ、協会の

発展とワーカーの資質向上のため、努力

していききたいと思ひます。

創刊の発行がおくれましたので、次号を

続けて出す予定です。

御感想なり、御批判なり、何でも結構

です。会員諸氏の投稿をお待ちしております。

あて先 仙台市外記丁通り

宮城県社会福祉協議会内

宮城県医療社会事業協会

当協会総会開催後、特別会員の募集について

お願いいたしました。早速御賛同頂

いてお願いいたしました。早速御賛同頂

いてお願いいたしました。早速御賛同頂

いてお願いいたしました。早速御賛同頂



特別會員

公立刈田綜合病院長	菅原六夫	順敬称畧
鹿島台町国民健康保險病院	本田太郎	
財団法人倉橋洋行附設病院長	高橋実	
国立療養所東北新生園長	上川豊	
財団法人早坂愛生会病院長	早坂得奈治	
齊藤外科病院長	齊藤浩藏	
健康隆宮城第二病院長	林雄三	
安田病院長	安田陸郎	
山口同仁会病院長	山口大平	
国立鳴子病院長	菊地正三	
深谷病院長	千葉修次	
大友病院長	大友惣助	
守病院長	守宮之輔	
財団法人厚生会仙台台厚生病院長	海老名敏明	
財団法人光明会外科岩本病院理事長	岩本正樹	
梶田齒科病院長	梶田初男	
国家公務員共済組合連合会宮野病院長	佐藤守	
国見台病院長	松川金七	
小笠原病院長	小笠原清高	

掖済会塩釜病院長	金野信一
仙台赤十字病院長	女川浩
医療法人愛仁会宮城中央病院長	
内科佐藤病院長	神谷敏夫
財団法人結核予防会宮城東支部長	佐藤俊樹
国立仙台病院長	海老名敏明
国立宮城療養所長	中沢房吉
本吉町国民健康保險病院長	島山辰夫
国立多賀療養所長	伊藤理仲
	近藤文雄

以上(二十八病院)



医療社会事業とは

医療社会事業は何故必要か、どんな仕事か。人生さまざまの困難がおしよせる中で、病氣程人間を根こそぎ圧倒するものはない。健康さえ残つていれば勇気をふるいおこして又立ち向つて行くことが出来るから。勿論病氣の中には身体だけでなく精神の病もふくまれている。

医学の進歩は多くの目つて解らなかつた病氣の診断がつき、なおらなかつた病が回復するようになり、原因の究明が進んで或ものは予防することができ、以前よりも多くの人々が進んだ医療の恩恵にあづかることが出来て、平均寿命を大きく延ばした。然しながらこれら恩恵を引きかえに進化に伴う必然の結果として医療の方法は細分化され、医師や看護婦等の仕事はふえ、その善意にも拘わらず患者の扱いは非人間化されるのを余義なくした。患者は診断や治療をうけるために忙しい大きな組織の中を、あちこちの部に引きまわされ、待たされる上に馴れない道具や機械で恐ろしい思いをしなければならぬ。

病人と云うものは、人によつて多少の差はあるが、病氣そのものによつて起る不安と憂うつな情緒的反應をもつものであるから、馴れない非人間的環境で何が自分の身に加えられるかわからないという経験は、健康な人の想像以上の不安をかきたてる。それに加えて多くの患者にとつて、医療費等の経路上の阻路となつて心配や不安の種となる。英国や西欧の福祉国家と違つて、複雑で不備な我国の社会保険の網の目は荒

らく、必要を医療の恩恵からもれて行く場合もある。

社会事業は人間が人間として扱われ、社会の中に自己と自分の場をとり戻すように援助する仕事であるから、医療組織の中に社会事業の専門家を加えることは上に述べたような非人間化の弊を救ひ、はぐれてゐる人の道案内や患者が受ける医療を最高度に有効化するため、今から半世紀前まで医療社会事業を創めた米国のキャボット博士もこのように考えからであつた。

法令の規則や命令だけでは一人一人異なる患者の問題は解決せず、又同情心だけでも援助出来ない問題があるが、専門社会事業は人間と社会に關する専門知識を基礎に、人間の問題を原因的及び相互關連的に理解して、社会資源の知識と人間關係の技術を使用し、これまで難解であつた問題も援助することが出来るようになった。

ことに最近二〇〜三〇年間に急速に発達した心と体の相關々係の研究で、心の中のわだかまりから体の病が起つたり、増悪することが明らかになり、患者の物質的及び精神的環境を見逃すことは診断にも大きなミスとなることが医学的に認識されて来た。患者の環境や心の整理によつて病氣が治つた例は非常に多い。

又近代病院は完全看護や完全給食が実施されているが完全医療も当然考えられなければならぬ。これには患者の病む臓器の部分の治療のみ考えて、治療が完了した時単に呼吸をする生きものに止まることなく患者を一個の人格として、出来る限る人間らしい生き中妻(幸福)のある健康な生活をとり戻させる方向へ治療を向けて行くこ

とが要請される。完全医療には治療とともに予防衛生(社会復帰)への道が講ぜられる。WHOの健康の定義に次のように三つの面の健康が含まれている。



以上で患者が必要を医療を有効に受けるために援助を必要とする社会的個人問題のあることが理解されたと思ふが、これらを大分類すれば次の如きもので、それは単独に存在するときよりも複合的にからみ合う場合が多い。

医療社会事業の扱う問題

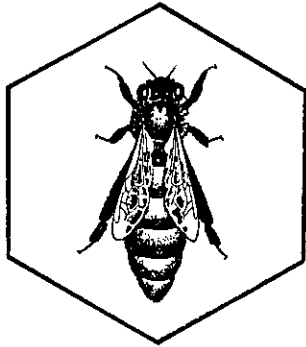
診療、療養、更生に關する相断に應じ、治療及び社会復帰の妨げとなる次の問題について援助する。

- 一、経済上の問題
- 二、社会の問題(家族、職場、職業等)
- 三、精神的特に情緒的問題
- 四、人格障害の問題

ここに掲げた具体例のスナップは患者の問題を一層鮮明に説明するであらう。

日本医療社会事業協会会長

浅智ふさ



我国最初の **ROYAL JELLY**

注射液完成！

天然ローヤルゼリー製剤（無痛性の筋注）



中外製薬

ローゼリー注

2cc—5管 ¥1100・2cc—30管 ¥5000

富士 X-レイ フィルム

レントゲン装置及び附属品

小型シネとカメラ
附属品及感光材料



フジクイックコピーその他事務機類
日立テレビその他家庭電気製品

富士写真フィルム株式会社特約店



県庁前店 仙台市定禅寺通 2 TEL 2-7135 (代)
東一店 仙台市東一番丁 (東映隣) TEL 2-3560
商事部 仙台市東三番丁 30 (南町通り) TEL 2-2795・2-0340
支店 福島・盛岡・青森

三共ビタミン研究50年の成果

新型活性ビタミンB₁

無臭・持続性、投与量に比例する強力な効果!

新発売

ビオタミン

オリザニンから50年…三共ビタミン研究陣が優れた技術を結集して、新型活性ビタミンを完成しました。本剤の最大の特長は無臭であること体内利用率が高いことなどで、治療上数多くの利点を有しています。

主な特長

- 腸管からの吸収性が非常に高く、高い血中濃度が長時間持続し、強力な効果を発揮します。
- 体内でコカルボキシラーゼになる率がきわめて高く、B₁塩酸塩の数倍にも達します。
- アノイリナーゼによって分解されず、投与量に比例した効果が得られます
- B₁特異臭や、他の不快臭は全くありません。
- 配合禁忌は殆んどなく、完全無臭ですから散の配合投与に好適です。又、調剤後の安定性も優れていますから安心して投与出来ます。

疲労・神経痛・筋肉痛・食欲不振・便秘・妊娠悪阻・弱視・難聴に

大量療法には高単位製品を…

5mg錠 30入 100入 300入 1000入 100倍散 100g 500g 1kg
高単位製品 25mg錠 100入 300入 10倍散 100g



三共株式会社